

目指しているのは化学農薬を全く使用しないみつば生産!

今号は、農薬問題が表面化する以前の昨年から、農薬(化学農薬)不使用に取り組んでおられる「あまグリーン水耕みつば部会」の水谷俊樹さん(愛知県海部郡八開村)のお話を紹介させていただきます。俊樹さんはお父さんが急逝され、それまでの自動車整備の仕事をやめ農業を引き継がれた2代目さんです。自分がやるからには自分なりのスタイルを構築したいとの思いと、機械いじりが好きな性分と持ち前の研究熱心さから、農薬不使用に向けて種々のトライをされていました。それは昨年7月電解水発生装置、細霧発生装置の導入に始まりました。試行錯誤を繰り返し、現在の使用パターンは、週1回200 μ l/反の量PH2.6の酸性水散布、その後PH11.4のアルカリ水を葉焼け防止の目的で散布に落ち着いたとのこと(夏場には散布周期3日に

1回)。この処理でほとんど病気防止できているが、冬場の灰色かび病には、これだけでだめで、カリグリーン(炭酸水素カリウム)をアルカリ水に混ぜて散布で処理できたとのこと。今年に入っても、ハウス外部の防虫ネット、ベットシート交換、熱交換パイプ交換、できーくん導入、ラノーテープ設置と意欲的な取組が続いています。防虫ネットは4mm目と大きめですが、ヨウムシは防げるし、ハウス内換気が良くなって、効果ありと満足げな様子でした。その他アブラムシにアブラハチなどの天敵使用にもチャレンジ中とのことでしたが、こちらはまだ課題が残っている様子でした。

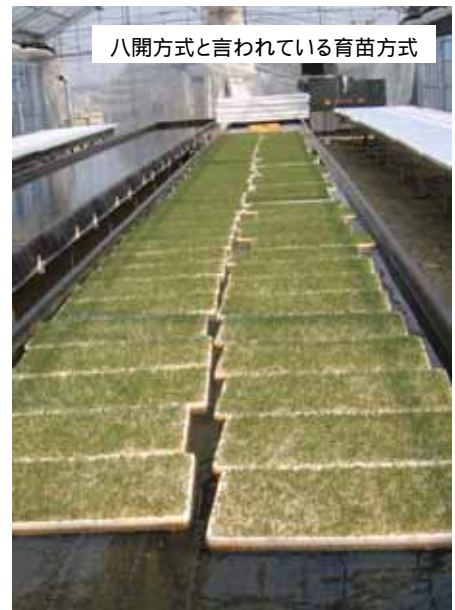
農薬取締法改正後問題となっている種子消毒については、洗浄時にアルカリ水を使用し、その後酸性水に2H浸漬、その後乾燥し冷蔵庫保管、播種

時は、取出してそのまま播種する方法で問題はなく解決済みの判断をしているとのこと。最近では溶存酸素をテーマにした取り組みを開始されるなど、化学農薬を全く使用しない作型を指向しておられます。まだまだ課題が多くやることは一杯あると元気に語ってくれました。できーくんの評価は、生育が早く、固い品物が作れる、肥料を的確に食って繊維質の発達がいいのだろうと合格点をいただきました。このようにより経済的に、健康なみつば作りをと、各システムの効用を引き出しながら、自分の生産スタイルを構築していきたい!それが、夢であり、あるレベルまで到達すると、それが自分流となるのではと、長期的な視野を持ちながらの取組は、感心させられました。ますますの発展を心からお祈りいたしております。

(担当 川村庄一)



リニューアルなったハウスと水谷さん



八開方式と言われている育苗方式



電解水発生装置と細霧発生装置



細霧装置動作状況